



山形県ハルビン事務所だより

平成 28 年 10 月号

黒龍江省農地視察 ～庄内土地改良事業団体連合会 黒龍江省来訪～

9月4日から、山形県庄内地区の土地改良事業団体連合会の理事長ら13名が黒龍江省に視察に訪れ、省政府、研究機関関係者と意見交換、農業試験場の視察を行いました。

今回見学した水田は、新潟県の協力を得て現地政府が整備したとのこと。視察先の担当者からは、「安全、安心な食糧の確保は中国の大きな課題であるが、中国には土地改良区のような組織がなく、区画統一が難しい。農業基盤整備は全て政府の資金で進めており、まだまだ遅れている。省内でも

水資源の乏しい場所があり、日本の灌漑設備や節水技術に期待している。」と説明がありました。

視察した方々からは、「30年前の日本のような雰囲気」「細部は改善が必要」と山形県の農業技術導入の余地があることをうかがわせる意見と同時に、地下室にモニタリングシステムを保有している点や、黒龍江省産米のおいしさに感心する声が聞かれました。



※農地視察の様子



※農業試験場視察の様子

日中学生交流 ～東北林業大学・東北公益文科大学学生相互交流～

東北公益文科大学への短期留学

ハルビン事務所では、黒龍江省内の大学に対して、東北公益文科大学への短期留学プログラム(3週間)の説明と、生徒募集を行っています。昨年は7名、今年は8名の申込みがありました。人が多く、高層ビルが立ち並ぶ大都市で生活している黒龍江省の学生にとっては、山形県は癒しの空間として魅力的に映ったようです。



ハルビンからの短期留学生 羽黒山にて

公益大生 林業大学学生と交流

9月7～12日、公益大生と引率の先生総勢10名が、北京等での観光を含む短期留学のため、黒龍江省を訪問しました。行程の中で東北林業大生と交流する機会もあり、参加した学生は、国際交流の重要性や外国語を学ぶ大切さを肌で感じていました。参加者からは「また訪れたい」、「留学するにはどうしたらいいか」等の意見・質問が出ました。



東北林業大学 日本語学科の学生と交流する様子



山形県ハルビン事務所だより

スキーツアー説明会 ～県内インバウンド事業に向けたPR活動について～

9 月 9 日、東北観光推進機構、JTB東北、日本東北の自治体等で実施する「中国スキーマーケット戦略事業」に参加し、大連市の7つの旅行社を回り山形を売り込みました。また、9 月 10 日には日本の東北スキープロモーションに参加し、スキー愛好家の方やメディア関係者、旅行社に対し、山形の四季、蔵王、月山スキー場、温泉、美食を紹介しました。

現在、大連市ではスキー愛好者が増加しており、その数は現在 5,000～6,000 名程度に達しています



スキープロモーション会場全体

が、普段は長白山(吉林省と朝鮮の間に位置する雪山)でスキーを楽しんでいるとのことでした。

今回の山形県スキープロモーションの参加者は、30代から40代後半が大多数を占めており、食事や宿泊・観光施設などに興味を示しておりました。大連の旅行者へのPRでは、山形の食・観光に大変関心があるとの声があがり、今後の送客が期待されます。



東北スキープロモーションで説明する様子

方正県 日本人公墓視察レポート

8 月、ハルビン市から東に 210 km に位置する方正県を訪れました。方正県は、中国で唯一、日中戦争時に命を落とした日本人のために建立した日本人公墓がある場所として知られており、大石田町と友好都市関係を結んでいる県でもあります。日本の敗戦時、約 5,000 人の日本人が、この近辺で飢餓、病気、集団自決等で命を落とし、さらに約 5,000 人の子供が現地の中国人家庭に引き取られ、育てられたそうです。日本人公墓と同じ敷地内には、残留孤児の方々が中国の養父母のために建てた中国養父母公墓や、この地域で米づくり技術を指導し、後に中国政府から荣誉证书を授与された藤原長作氏の記念碑、日中友好平和モニュメント、日中友好平和陳列館もあります。

陳列館内には、山形県の工芸品の展示に加え、山形県日中友好協会、大石田町の名が刻まれています。方正県の外事弁公室の担当者は「2005年以前は、日本の各地の友好団体が頻繁に方正県を訪れたが、近年の日中関係の悪化を受けて、訪問者が激減した。また、残留孤児の方々も高齢となっており、他界された方もいるため、孤児の訪問団も少なくなりました。日本との交流が減ってしまったことは非常に残念である。山形県や大石田町とは、今後、交流を拡大させたい。」と話していました。

方正県は米の産地としても有名で、国内外の展示会に出展して販路拡大に取り組んでいます。



方正県 日本人公墓入口



日本人公墓